

連絡及び確認体制の見直しによる廃棄血削減への取り組み

◎久保 ミユキ¹⁾、坂井 春香¹⁾、西津 将巨¹⁾、林 聖香¹⁾、吉永 真人¹⁾
社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 福岡県済生会福岡総合病院¹⁾

【はじめに】当院では廃棄血削減対策として長期に渡り様々な取り組みを行ってきた。廃棄理由のなかでは割合としては少ないが、血液製剤準備完了から輸血実施に至るまでの連絡及び確認不備による廃棄事例が見受けられた。これは期限切れなどの廃棄理由とは異なり、連絡体制・確認体制を整備することで防ぐことができるのではないかと考えた。【対策】2018年4月より従来の連絡体制を見直し、初の運用を試みた。2022年1月からは再度連絡体制を見直すとともに、新しく電子カルテに「輸血指示箋」を設け医師からの輸血指示を明確化した。また看護師の輸血指示確認を徹底するため、血液製剤受け取り伝票に「指示確認済」欄を設け、指示確認済の欄にサインが有ることを条件に血液製剤を払い出す運用を開始した。【調査】運用開始から半年経過後、ランダムに選択された外来・病棟看護師121名に2022年1月からの連絡体制についてアンケート調査を実施した。【経過】2018年4月からの連絡体制見直し後、確認不備による廃棄事例が1例発生した。2022年1月以降の再度見直した

体制からは連絡および確認不備による廃棄事例は発生していない。また看護師への調査結果からは約60%が業務軽減になったとの回答を得た。一方で「輸血指示箋」の inputs がなく活用できていないこともわかった。【結語】今回連絡体制を見直し、新たな運用として輸血指示の明確化及び確認体制を徹底したことで、僅かながらではあるが廃棄血を削減できた。輸血療法には多職種が携わるからこそ連絡及び確認体制の整備は重要である。

”連絡先－092-771-8151（内線 5424）”